

東京都畜産振興プラン



平成 18 年 7 月



東京都産業労働局

東京都畜産振興プラン

はじめに	2
------------	---

第1章 プランの目的と視点

① 目的	4
② 取組の視点	5

第2章 畜産の課題と今後の振興方向

① 畜産農家の現状を捉え魅力的な畜産経営を創出	6
② 安全・安心に対する消費者からの強い期待	20
③ ふれあい・食育活動の推進	22

第3章 畜種別振興方策

① 酪農	25
② 肉牛	27
③ 養豚	29
④ 養鶏	31

はじめに

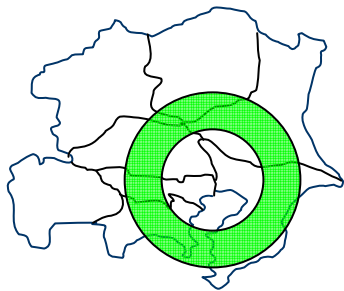
◎ 東京の畜産業

東京都では多摩地域を中心に、畜産業が営まれています。これらの地域は、昭和 30～40 年代の都市計画において、首都圏の外側にグリーンベルトとして構想されたエリアで、元々農業・畜産が盛んであった地域です。

都内の畜産農家戸数は、酪農では 20 年前には 400 戸以上あったものが、現在では 100 戸を下回っています。肉牛農家でも 160 戸以上から 60 戸、養豚にいたっては、400 戸以上あったものが 21 戸まで減少しています。

しかし、現在も畜産業を継続している農家は、都市化の進展する中で様々な工夫により畜産を存続させてきた意欲的な経営体と言えます。

都市近郊のグリーンベルト



都内畜産農家戸数(2005.12月末)

	区部	三多摩	島しょ	合計
酪農	1	81	10	92
肉用牛	0	31	29	60
養豚	1	17	3	21
採卵鶏	16	108	76	200
肉用鶏	0	7	17	24

東京都の畜産業は、都民に新鮮で良質な畜産物を供給するとともに、一貫して安全・安心な畜産物の生産を追及してきました。また、牛乳工場等の施設も近接していることから、生産物の効率的な流通の条件が整っています。その上、加工業などの関連産業に対しても、高い経済波及効果を有している等のメリットもあります。さらに、消費地を身近に持つ条件を活かし、牛乳や乳製品、鶏卵などで、生産者の顔が見える安心できる畜産物を消費者に直接提供することが可能です。

加えて、酪農教育ファーム^{*1}等で見られるように都市住民と家畜とのふれあいを通じ食育に貢献したり、都内の耕種農家へ良質なたい肥を供給することができます。

地域別に見ると、都市化の進んだ市街化区域では、身近にいる多くの消費者と手を結び、地産地消の推進に貢献できます。また、下水整備が進ん

でおり、簡易な施設で家畜排せつ物の処理が可能です。一方、市街化調整区域では、都市化が抑制されているため、畜舎やたい肥舎の建築が容易で経営継続に有利な条件があると言えます。

また、畜産業を観光資源として活用できるなど、東京の畜産業はこれからも発展していく可能性のあるものです。

◎ 東京都は都内の畜産業を振興していきます

東京都は、東京ならではの特徴あるブランド畜産物の生産を、近県とも協力して進めていきます。同時に 1,200 万都民を背景に、都内の畜産業が、長年培ってきた安全・安心な生産技術や食文化を都民と共により積極的に発信するとともに、さらに魅力ある畜産経営の実現を目指していきます。また、食品残さ等を畜産業の中でリサイクルするなど環境負荷の軽減を図っていきます。

そのために、畜産振興施策と合わせ、特徴あるブランド畜産物の開発、飼料の安全性確保や家畜疾病などへの試験・研究の実施や検査体制の強化にも努めていきます。

また、都市化が著しく進展し、都民が家畜や緑に触れる機会が少なくなっている東京で畜産業の有する多面的機能を活かし、積極的な食育の場として活用していきます。

東京に畜産業が存在することは、住宅地域や産業地域、そして家畜や緑とふれあえる地域が存在する、バランスのとれた都市環境を構築することにつながります。

東京都は、都民にとって有意義な畜産業を、それぞれの地域の特徴を活かしながら振興していきます。